

(賛成討論)

市議案第80号令和2年度豊中市一般会計補正予算第9号について、討論します。豊中まつり事業については、当初予算額1707万9千円から5万8千円の減額補正として補正予算が計上されています。この5万8千円の減額分に対して反対という訳ではありませんが、新型コロナウイルス感染拡大のもとで施策・事業のあり方を見据えた予算の見直しを行われた上で、減額分が5万8千円に留まっているということは、理解も納得もできません。まず、当初予算を承認したのは、新型コロナの感染拡大は考慮されず、従来通りの豊中まつりを実施することに対する予算案として承認したもので、豊中まつりをオンラインで実施することに対して、承認したものではありません。質疑の中で、「豊中まつりは、市民、事業者、市が互いに対等な立場で協力連携してつくりあげていくという考え方に基づいて、それぞれが有する人材や資金、技術などを持ち寄って実施している。市の負担金の負担割合についての取り決めはないが、実績やその時々々の社会経済情勢等を踏まえて、市が予算化している。」と答弁がありました。さらに、「豊中まつりは、「市民がつくる市民のまつり」をコンセプトに市民・事業者・市がそれぞれの強みを活かして実施することにより、高い効果もたらされている。財源など運営面についても、市民・事業者・市が資金やマンパワーなどの資源を持ち寄って実施することが望ましいと考えている。」と答弁がありました。今回、豊中まつり全体の当初予算額は約3025万円で、そのうちの半分の1500万円を市が負担金として実行委員会に支出する予定でしたが、オンラインでの豊中まつりの実施に変更となることで、とよなかまつり全体の予算額は、約1600万円に削減されています。一方で、市が豊中まつり実行委員会に、当初予算通り、1500万円の負担金を支出することは、市民、事業者、市が対等な立場で協力連携して作り上げているという考え方、その時々々の社会経済情勢等を踏まえて予算化する、財源など運営面についても、市民、事業者、市が資金やマンパワーなどの資源を持ち寄って実施することが望ましいとの市の考え方とは全く異なる行為だと思えます。市民、事業者からの協賛金や広告料等が集まりにくいことは、理解しますが、そのような社会経済情勢だからこそ、市民、事業者、市が対等な立場で協力連携して作り上げるという考え方にたつて、資金を持ち寄って実施するという観点からも、運営費のほとんどを市の負担金だけで賄うような形ではなく、市民、事業者から集められた協賛金や寄附と同額程度を市が負担金として支出する運営を模索すべきだったと思えます。その点で言えば、WEB による豊中まつりの開催に向けたクラウドファンディングを実施して頂き、市民等の WEB による豊中まつりに対する興味や関心、期待の度合いが一定、図るとともに、クラウドファンディングで集まった金額と同額を負担金として支出するなどの方法も検討するべきではないかと思えます。最後に、今回、オンライン豊中まつりに実施方法が変更になっても当初予算と同額の負担金を支出するという判断は、従来の豊中まつりと同程度の効果を得るという挑戦的な判断をされたことを意味するとともに、コロナの影響を踏まえても、さらにはリアルからオンラインに変更しても豊中まつりには、当初予算通りの負担金が支出される判断をされたことで、地域の方々から、「地域のお祭りやイベントにも、つながりやふれあいを大切に、地域の方々に元気を届けたい」、「市民の前向きな活動を市が後押しすることで、市民、地域団体の気持ちや力をつなぎ、地域の活気を取り戻していきたい」と言って、市に負担金や補助金を求められた場合、どうされるおつもりなのか、さらには、今後の予算編成にあたって、財政状況が厳しいという

理由で、従来通りの予算要求が通らなかった各課から、豊中まつりは、新型コロナウイルス感染拡大の影響で実施方法が大幅に見直されても、予算減額はなかったのといった、市民や市役所内部からの不満や不公平感を生む判断をされたと指摘し、反対は致しませんが、今回の判断を重く受け止めて頂きたいと意見しておきます。